

第二十五回帝國讀會院種痘法案委員會議錄(筆記)第一回

明治四十二年三月三日午前十時四十分開議
會議

出席委員左ノ如シ

長 晴登君

森田 俊佐久君

高原 篤行君

東條 貞平君

八木 達郎君

東條良平君

東條良平君

東條良平君

東條良平君

東條良平君

出席政府委員左ノ如シ

内務次官法學博士 一木喜徳郎君

内務省衛生局長 窪田靜太郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

内務技師 野田 忠廣君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

種痘法案

○委員長(長晴登君)ハ開會ヲ宣告ス

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ本案ノ大體ニツキ 説明ヲナスヘキ旨ヲ告ゲテ曰ク現行

法改正ノ要點ハ第一兒童ノ種痘ヲ爲スヘキ年齢ヲ一定スルノ要アリ即チ現行法ニ満一年以内トアルヲ出生ヨリ翌年六月ニ至ルトナシ 五年乃至七年トアルヲ數ヘ年十歳ト

ナシタリ是レ從來各人ニヨリテ種痘時期ヲ異ニシ之レガ調査ニ際シ現行法ニヨレバ生年

月日時迄モ計算スルノ要アリテ取扱上多大ノ煩累ヲ來シ爲メニ事務處辨ノ敏活ヲ缺

クノ恐レアルヲ以テ數へ年法ヲ用井努メテ取扱ニ簡便敏活ヲ期シタリ又種痘ハ普通二度ニテ稍免疫スルモ痘病流行ノ際ハ感染力強烈ナルヲ以テ臨時施行ニヨリテ之レガ防

遏ヲ期セんガ爲メ第十七條ニ之レガ規定ヲ設ケタリ而シテ平常ハ本案第一條所定ノ通

リ種痘定期ヲ一期トナシ之レガ厲行ニヨリテ以テ流行ヲ防ぎ免疫ノ目的ヲ達スルモノト

信ス尙ホ種痘感應ノ良否ハ又種痘術ノ巧拙ニ關スルモノアルヲ以テ之レガ講習ノ方法ヲ設ケテ良好ノ結果ヲ得タシ思考スト述ベタリ

○東條良平君ハ本案ニツキテハ別ニ細則様ノモノアリヤト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ細則トテハナキモ種痘心得ナルモノアリト答へ更ニ第二

ノ改正ノ要點ハ兒童種痘ノ義務者ヲ明了ニシテ種痘ノ普及厲行ヲ期スルニ在リ是レ本案第一條第三條第二十二條ニ規定シ保護者ノ責任ヲ明カニシ更ニ

保護者ヲシテ其義務ヲ履行セシムベキ責任者ヲモ明示シタリ第三ニハ從來市町村が種痘ノ責ニ任シ居レドモ是レ便宜上此ニ至リタルモノニシテ當然ト云フベキモノニアラザルが

故ニ將來ハ法律ノ明文ヲ以テ市町村ヲシテ當然其責ニ任セシメ以テ種痘ノ普及勵行

ヲ期セント欲ス是レ本案第五條ヲ規定シタル所以ナリ第四ニハ種痘ノ濟否ヲ證明スル

方法ヲ確實明白ナラシムルヲ要スニ在リ從來ハ種痘證ナルモノヲ交付シタルモ動モスレバ

紛失輕視セラレ後日ノ取調ニ不妙不便ヲ招クヲ以テ之ヲ排シ世人ノ尤モ貴重トナセル

戸籍簿及學校ノ卒業證ニ簡明ナル記載方ニヨリテ濟否ヲ明了ナラシムルヲ以テ最モ適

當ナル方法ナリト信ズ是レ本案第八條第十二條第十五條ヲ設ケタル所以ナリ尙水臨時種痘ノ場合ハ地方長官ヲシテ本法ニ準シテ施行ノ責ニ當ラシメタリ要スルニ痘疫ノ人身ニ及ボス災禍ハ甚ダ恐ルベキモノアルヲ以テ之レガ流行ヲ嚴密ニ防遏スルノ必要アルが爲メ法律ノ力ヲ以テ之レガ勵行ヲ期セントスルニ在リト述ベタリ

○東條良平君ハ下宿屋ノ其ノ宿泊者ニ對スル關係ハ本案第三條ニ含有セリヤト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ下宿屋ノ其宿泊人ニ對シテハ唯ダ食事ヲ供シ居室ヲ貸スノミニ過ギズ教育監護等ノ身分上ノ關係ナキモノナルガ故ニ本案第三條ニハ包含セズト答ヘタリ

○東條良平君ハ本案第六條第九條ノ場合ニ於テ種痘定期者ノ人名調査ノ方法如何ヲ質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ戸籍簿ニヨリ之ヲ調べ戸口調査等ノ方法ニヨリ勸誘セシムルニ在リト答ヘタリ

○東條良平君ハ第九條ノ直ニ種痘ヲ行フベシトノ意味如何ヲ質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ本法ノ明文ニ基キ市町村醫ヲシテ直接強制的ニ行ハシムルノ意ナリト答ヘタリ

○東條良平君ハ参考ノ爲メナリトテ全國ノ第一期ニ二期ニ種痘者ノ數並ニ其ノ前三年間ノ平均數及之レニ交付シタル痘苗ノ官製民製兩者ノ數如何又々痘苗ハ何傳迄繼續スルヤ及ヒ官民兩者製造法ノ異同如何ト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ種痘者ノ數ヲ知ルコトハ數ヘ年十歳ノモノ、統計ナキガ爲メ之ヲ知ルコト容易ナラズ痘苗配付數ハ官製ハ明ラカナルモ私製ハ不明ナリト答ヘタリ

○東條良平君ハ本法立法提出ノ趣旨ヲ貫徹センガ爲メ他日無償配付ノ場合ナシセザルガ故ニ前三年間ノ配苗ノ數ヲ知ルコトハ必要ナリト信ズ政府ノ所見如何ト質問セリ

○東條良平君ハ傳染病研究所及私立痘苗製造所ヨリ配付シタル痘苗ノ數如何ヲ質

問セリ

○内務技師(野田忠廣君)ハ政府出生數ノ統計ニ基キ第一期種痘數ヲ千人ニツキ三

十人第二期種痘ヲ千人ニツキ二十人トシ定期ヲ二十分ノ一ト概算セリ又タ三十七年

ノ統計ニヨレバ出生數百四十四万三百七十一人ナリト述ベタリ

○東條良平君ハ傳染病研究所及私立痘苗製造所ヨリ配付シタル痘苗ノ數如何ヲ質

問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ研究所ヨリ四十年度四百五十八万二千二百九十四具卅九年度八十七万九千五百四十八具卅八年度百八万九千九百十九具ナリ

而シテ斯ノ如ク各年度間ニ大差アルハ四十年ノ末ヨリ四十一年ニ掛ケテ該疫流行シタ

ルガ爲メナリ又私立製造所ヨリ配付シタルハ凡ソ八十万乃至二百二十万具ノ間ニアラ

シト信ズト答ヘタリ

○内務技師(野田忠廣君)ハ痘苗ノ傳數ハ傳染病研究所ノ分ハ二百傳ニシテ私立製造所ノ分ハ三傳ナリト述べタリ

○東條良平君ハ私立製造所ニ兩傳比較研究所ニテハ兩者比較ヲ爲シ居ルト答へタリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ傳染病研究所ニテハ兩者比較ノ良否如何ト質問セリ

○東條良平君ハ私製痘苗ト官製痘苗ト感應ノ差如何ト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ兩者感染ノ程度ハ同一ナラント答へタリ

○東條良平君ハ政府ハ既ニ本案ノ如ク法律ノ力ヲ以テ強制的ニ種痘ヲ勵行セント欲セバ其趣旨ヲ貫徹センガ爲メニ痘苗ヲ無償配付スルノ考ナキニアラザレトモ傳染病研究所費十

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ無償配付ノ考ナキニアラザレトモ傳染病研究所費十八万圓ニ對シ無償配付ニヨリテ生ズル二万圓ノ收入減缺ニツキ大藏省ニテ之ヲ輕視セ

ザルベシ加之臨時種痘ノ場合ノ如キハ其配付額又巨額ニ上ルコトナシトセズ四十年度ノ如キハ賣下高十二万圓ニ上リタリ之ヲ無償トスレバ十万圓位ニナルベシ之レ考慮ヲ

要スル點ナリト答へタリ

○東條良平君ハ大藏省ニテ同意セバ内務省ハ無償配付ノ道ニ出ヅルヤト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ之ヲ無償ニスレバ其ノ配付額ヲ定ムルニ際シ其濫費ヲ

防ヶガ爲メ郡役所等ノ機關ヲ經由シテ標準高ヲ調査スルノ必要ヲ生ジ爲メニ繁雜ナル手數ヲ招キ從テ本立案法提出ノ趣旨タル敏速勵行ノ目的ヲ達スルニ至ラザルベシ現今既ニ市町村傳染病豫防費ノ五分ノ一ハ縣費ヨリ補助ヲ與ヘ居ルが故ニ更ニ無償トナテ補助ヲナスノ要ナカルベシ其他無償配付ニ對シテハ幾多ノ弊害ヲ招クノ恐レナキヤノ感アリ故ニ收入ノ減額ト手數ノ煩累トヨリシテ無償配付ハ目下ノ處必ラズシモ最善ノ法ナリト云フ能ハザルベシヨシ又無償配付トナスモ之レハ豫算ニ於テ決スベキ性質ノ問題ニシテ之ヲ法文ノ上ニ明示スベキモノニ非ラザルベシト答へタリ

○八木逸郎君ハ之レハ無償配付問題決定ノ参考ナラントテ歐洲ニ斯ノ例アリヤト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ獨逸ニ其ノ例アルモ該國ハ市町村ヲ以テ單ニ種痘施行ノ區域トナスニ過ギズ我國ノ如ク種痘ノ義務ヲ負ハセ居ラザルガ如ク其ノ種痘制度ノ根本ニ於テ兩者其趣キヲ異ニセルガ爲メ彼ノ例ヲ以テ直チニ我レヲ律セントスルハ不倫ナルベシト答へタリ

○八木逸郎君ハ本案第六條ノ種痘定期ノ算定ニ就テ質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ出生後直チニ種痘スルニアラズ三月頃最モ良好ノ時期ナリトス又出生後翌年六月迄トハ立法ノ趣旨漠然タルガ如キモ之レニ算定ノ

便利取扱ノ敏速ヲ期セんガ爲メニシテ從來ノ満何年ト算シタルヲ數ヘ年ノ算法ニ改メタル亦然リ又臨時種痘ノ範圍及施行ハ地方長官ヲシテ本法ニ準ジテ之レガ任ニ當ラシムルノ考ヘナリト答へタリ

○森田俊佐久君ハ種痘施行ノ義務者ヲ第二條ト第五條トニ規定セルハ義務者不定ニ重複ノ嫌ナキヤト質問セリ

○政府委員(窪田靜太郎君)ハ第二條ハ直接兒童ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ身分ト義務者ヲ示シ第五條ハ種痘制度ヲ實施スル行政上ノ義務者ヲ明ラカニシタルモノニシテ

兩者義務ノ性質ヲセルモノナレバ立法上重複ノ嫌ナシト答へタリ
○松野祐次郎君ハ本案第一條ノ末文ハ事實ニ於テ同條第二項ノミニ適用セラル、モノナレバ該文ヲ第一條ノ末位ニ獨立存置セシムルハ法文ノ體裁上其宜シキヲ得タルモノニ非ラズト信ズ政府ノ所見如何ト質問セリ

○山根正次君ハ本案ハ大ナルガ故ニヨリ速記ヲ附シテ更ニ質問ヲ續行スルノ要アリト發議セリ

○委員長(長崎登君)ハ山根正次君發議ニ異議ナキヲ認メ更ニ回ヲ重ネ質問ヲ續行スル旨ヲ告ゲ散會ヲ宣告シタリ

午時午後零時二十分